

博学連携の研究

— 横断しながら広がる探究の視野 —

学校・美術館・地域が結ぶ、学びの星座

A Constellation of Learning: Schools, Museums, and Communities in Dialogue

安見 一葉 Kazuha YASUMI

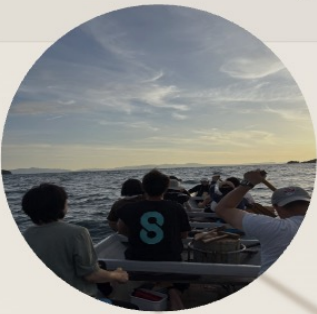
大阪公立大学大学院 / Osaka Metropolitan University

異分野研究交流会 / SEP 17, 2026

Research Question

個人依存で終わりがちな**博学連携**を、いかにして**持続可能な学びのシステム**へと編み直せるか。
— 実践 調査 理論を横断し、成立条件を明らかにする。

● 実践・事例 ● 調査 ● 理論



神戸フィールドワーク
修士論文の起点
KOBE FW · MA THESIS ORIGIN

RESEARCH

● 新聞記事 × 連携事例調査

1980s〜 / ポケモン財団 社会人講師 土曜学習応援団 等

CORE CASE

● 水俣 × VTS

対話を用いた鑑賞。もやい直しと高校生の実践
— 博士論文の中核。



基礎造形活動
「おやこであーと」
CLAY WORKSHOP ·
PARENT&CHILD

RESEARCH

● ミュージアム × 学校

フィンタビュ / 教育政策 × 社会課題との接続

The Core

博学連携

School × Museum × Community

RESEARCH

● デジタル × GIGA

コロナ禍で加速 / 鑑賞データのデジタル化 オンライン化

THEORY

● 教育政策 × 社会課題

コミュニティスクール / 教員不足 負担軽減

KEY THEORY

● 媒介する人材

コーディネーター / アーティスト語り部 — 連携を成立させる要



教員研修 × 授業 × 大学生WS
アクションリサーチ
ACTION RESEARCH · TEACHER
TRAINING



国際比較 / 東アジア 東南アジア
台湾 ベトナム 中国
ASIA COMPARATIVE STUDY

MODEL

成立条件モデル (5要素)

① 媒介人材

コーディネーター語り部・アーティストの存在

② 地域文脈

その土地の課題 記憶 関係性への接続

③ 対話の場

VTS等、多声を許す鑑賞 学びの手法

④ 持続の仕組み

個人依存を超える組織 制度 DBの設計

⑤ 学習システム / 上記の重なりが「学びの星座」を成立させる

01

FINDINGS

知見と貢献

02

▶ 個人依存を可視化する

キーパーソン一人に依拠した連携は、退職・異動で断絶する。制度設計と媒介人材の複数化が鍵。

▶ 地域文脈が連携を耕す

水俣「もやい直し」に見るように、地域の物語がVTS対話と接続することで学びが深化する。

▶ 翻訳者としての研究者

実践 ⇄ 理論 ⇄ 政策を横断的に翻訳する役割を担う研究者像を提示する。

Keywords

個人依存

持続性

地域文脈

コーディネーター

ファシリテーター

媒介人材

学習システム

VTS

GIGA

啓発活動の変化